



学会誌 投稿規程 ※2026年1月26日より適用します。

1) 投稿資格

本誌への投稿は本会会員に限る。連名の場合は少なくとも著者の一人が本会会員であること。ただし、本会が依頼する場合にはこの限りではない。なお、各号の種別原稿（論説、研究ノート、水環境フォーラム、書評および資料）への同一著者による掲載はそれぞれ1本を限度とする。

2) 投稿原稿の種類

論説、研究ノート、水環境フォーラム（水と環境にかかわる地域と海外の事例紹介）、書評および資料とし、いずれも未発表のものに限る。ただし、卒業論文、修士論文は未発表とみなす。投稿原稿は原則として和文とする。

3) 掲載料

- (ア) 論説1投稿につき10,000円、研究ノート、水環境フォーラム、資料1投稿につき5,000円の掲載料を掲載決定後に支払うものとする。
- (イ) 依頼原稿および書評については掲載料を徴収しないが、超過ページについては超過原稿料（以下4）（オ）を徴収する。

4) 投稿原稿の分量

- (ア) 記事は、できあがりて論説8頁、研究ノート・水環境フォーラム5頁、書評2頁以内とする。
- (イ) 投稿に際し、投稿原稿の規定内に収まるものか、2段組（1段25字×48行、1ページ＝2段2,400字）であらかじめ版組をして確認する。ただし、冒頭ページについてはタイトル等が含まれるので、本文部分は論説・研究ノート（1段25字×28行、1ページ＝2段1,400字）、水環境フォーラム（1段25字×40行、1ページ＝2段2,000字）、書評（1段25字×36行、1ページ＝2段1,800字）になる。
- (ウ) 投稿の時点で、大幅に分量が超過する場合には、編集委員会の判断で投稿を受付けない。判断に当たっては、（イ）に記した1ページ内文字数を基本に判断する。
- (エ) 原稿が（ア）で規定する制限枚数内に収まらない場合であっても、超過原稿料を負担のうえで、掲載される場合がある。その場合でも、（ア）で規定する制限枚数の1.5倍程度とする。査読による加筆に当たっても、その点に留意すること。
- (オ) 規定ページ数を超える原稿については、著者は1ページにつき10,000円を負担する。

5) 原稿の書き方

本学会所定の「執筆要領」にしたがうこと。図表等は解像度240dpi以上とすること。



6) 原稿の査読

論説について、編集委員会は査読を専門家に依頼する。その結果を受けて、編集委員会は採否を決定する。必要に応じて、著者に修正（原稿種類の変更を含めて）を求めることがある。他の原稿も必要に応じ、内容や表現の修正を求めることがある。なお、受理した原稿は返却しない。

7) 原稿の提出方法

本学会ウェブサイト内「お問い合わせフォーム」より「論文等の投稿」を選択し、フォーム内の必要事項に記入の上、「送付状」（Word ファイル、「お問い合わせフォーム」よりダウンロード可）、「投稿原稿」（Word ファイルおよび PDF ファイル）、「図表データファイル」（本文原稿とは別にそれぞれのファイルを作成すること）をそれぞれアップロードする形式で投稿すること。

8) 著作権の帰属

本誌に掲載された論説、研究ノート、水環境フォーラム、書評および資料、すべての著作権は、水資源・環境学会に属する。以下の行為は認められない。

- ① 著者が PDF ファイルそのもの、またはその印刷物を有料で販売すること。
- ② 著者が PDF ファイルを個人ウェブサイトからダウンロード可能にすることや、メーリングリストで配信するなどして、大量に、または不特定多数に配布すること。
（ただし、学会との間で機関アーカイブとして別の取り決めがある場合は認める。）
- ③ 上記②にかかわらず、本誌のJ-STAGE上のオープンアクセス記事に対してクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを付与する。本会が著作権を保持したままCC BY-NC-ND 4.0（適切な出典表記が与えられ、改変なし、非営利目的である場合に限り、当該論文の再利用が可能）を認める。再利用に際し、本学会の許諾は必要としない。

9) 異体字や外字の変換について

本誌をインターネットで公開する際、HTML 形式で抄録を公開する。HTML 形式でのファイルは、機種依存文字、異体字や外字、一部の漢字など正しく表示できないため、検索用のデータに限り、該当文字への置換えを編集担当者が行うこととする。（例：高橋→髙橋）